

文化財 NEWS 速報

貝が見えた!三度目の調査へ 日暮里延命院貝塚見つかる



写真1 本発掘調査風景



写真2 貝層(左) 縄文時代の土器片を多く含む層(右)



写真3 出土した貝、動物の骨など



写真4 区内で初めて出土した石棒(部分)

荒川ふるさと文化館だより

荒川区教育委員会
荒川ふるさと文化館
荒川区南千住6-63-1
TEL03(3807)9234
登録(05)0061号-02

ご存知ですか? 日暮里延命院貝塚 東京では、モースが発見した大森貝塚について二番目に古く、「日暮里村ノ貝塚」として報告された、考古学史上大変有名な遺跡です。ところがその後、100年余り、所在がわからずにいました。しかし、昭和62年(一九八七)、西日暮里三丁目のビル建設現場の工事中にこの貝塚は再発見され、発掘調査を実施しました。当時、街中から発見された貝塚として地域の人も発掘に参加し、新聞報道されるなど話題になりました。その後、平成19年には、昭和62年の調査地に隣接したマンション建設に伴う本発掘調査を行いました。

今回の調査地点 今回見つかった貝塚は、これら2カ所の延長部分と考えられます。調査地点は、文化財保護法に基づき、周知の埋蔵文化財包蔵地である諏訪台・日暮里延命院貝塚遺跡の南西付近にあり、谷中ぎんざに続く夕やけどんだんをおりた左手の区境にあたります。事前の調査で、幅1.5m×長さ10m(面積15㎡)の長方形のトレンチ(試掘溝)を、東側と西側に2カ所開けたところ、西側からおびただしい数の貝が発見されました。土の層は5層に分けられ、私たちが立っている地表面から遺構確認面(縄文時代の人びとが生活していた層)までの深さは、浅いところで1.3m程です。その後、縄文時代の土器片(写真1)を多く含む層と、多量の貝類を含む貝層を確認しています(写真2)。この他、動物の骨や石棒なども見つかりました(写真3・4)。

貝塚の調査 貝塚の貝層の中からはかつて使用された遺物が豊富に出ています。それらは縄文時代の人びとが食べていたもの、道具、装飾品などで

生活や文化だけでなく、当時の環境など、たくさんの情報を私たちに与えてくれます。

これから発掘・遺物の分析など時間をかけて調査が進みます。新たな発見をまたお知らせします。(八代和香子)